

委員長 それでは、休憩を解いて再開いたします (14時35分)  
146ページの教育費から191ページ予備費までの審査を行います。御質問のある委員は挙手をお願いいたします。

平野委員 学校プールに関してと、それから図書館に関してお聞きしたいと思います。  
委員長 ページを言ってください。

平野委員 学校プール157ページ、図書館185ページですかね。

学校プールのことなんですけれども、ことしの夏からですが、小学校プールの夏休みの開放がなくなったということで学童が非常に不便をしていたという声が非常に大きかったということなんです、この声を直接そういう方からちゃんと聞いたりしているかということ。それから、一応、園バスを出して手当てはしていたということなんですけれども、それで使い心地がどうだったのかとか、その辺の声をきっちり聞いているのかということと、それから中学のほうは変わらず開放していたんですけれども、この中学プールのほうの利用状況、何か統計をとっていらしたなら教えていただきたいということ。

図書館に関しては、消耗品の中の雑誌のところはね、減ってしまうとかそういうところは既に指摘済みなんですけれども。先日でも、本会議場のほうでここを削るということは非常に文化というのがね、非常にやせ細ってしまうということで、町長もその辺の重要性を認識しているというような答えはいただいているんですけれども、これは文化センターにも関係することだと思うんですが、やはり図書館も広域、他町と協力し合うような体制をぜひつくってほしいと。今でも図書館は、貸し借りとしては協力体制があると思うんですけれども、例えば、何ていうのかな、この分野で今回はうちが頑張るよとか、得意分野をつくって行って少しずつ差別化を図るとか、あるいはその、何ていうのかな、フェスではないけれども、ちょっと協力して似たようなタイミング、あるいはちょっとずれたタイミングで、ほかの周辺の市町の図書館と何かそういうイベントを打つとか、何かそういう広域で考えていくということでお互いの予算の少なさ、文化予算を削られがちなところをカバーし合うような、何かそういうふうな取り組みができたらと思いますが、そのようなお考えはありませんかということで、お願いします。

教 育 課 係 長 平野議員の質問にお答えいたします。

まず、プールの関係なんですけれども、プールにつきましては、私の知る限りでは2件ほど、ある匿名という形であったんですけれども、一応要望ということでお話は伺いました。それで、中でも協議しました結果、回答しようと思ってたんですけれども、メールがちょっと違っていたりとかしてなかなか回答ができなかったというのはちょっと悔いに残ってるところではあるんですけれども、またあと人数のほうにつきましてはですね、年々減っている状況でございます。松田小学校につきましては、24年ですとですね、1,000人を超えていたんですけれども、今現在27年度では780人ですね。そのうちのほとんど、700人近くですが、学童の方が利用されているということで実績のほうではなっております。あと実際、大部分が学童さんということで、一般的な、普通に学童とは関係ないお子様について利用されている方が年々減っていたということでしたので、27年度につきましては試験的にちょっとやめさせていただいたというところで、また皆様からの御要望があるようであれば、またちょっと考えなければいけないかと思っているのですが、今現在のところではそのような状況でしたので、今年度につきましては一旦閉じさせていただいたと、休止という形で閉めさせていただいた状況です。また、28年度の、今年度の実績のほうも数字のほうは出ておまして、小学校は閉鎖してるんですけども、中学校につきましては1,108人と、去年に比べて77人減っております。それとあと、日数についても41日間、昨年度が43日開けておりますので、日数減っているに從ってもまた利用のほうも減っている状況です。あと、寄中学校につきましても、今回は304人ということで、昨年度は424人ですので、またこれにつきましても、120人ぐらい減っているということで、年々利用のほうが減っているということが挙げられます。今年度、ことしに関しては天候の不順があったりということで利用について少なかったかと思うんですけれども、やはり天気がよ過ぎても利用が減るという状況は、やはりあるということで、なかなかちょっと難しいところではある状況です。一応、プールについては以上です。

教 育 課 係 長 現在の質問の、図書の購入の仕方についてなんですけれども、現在ですね、図書館流通センターが発行している新刊図書というものを参考に、一つのジャ

ンルにこだわらないようにいろいろな分野別に分けて図書のほうは購入させていただいております。また、図書館の取り組みなんですけれども、現在、いろいろな年代とか性別にとらわれないようなことということで、月に3回と、あとは夏と冬に1回ずつ計38回なんですけれども、子供の図書館のほうでおはなし会という事業を行っております。この事業や、あとは年齢がちょっと社会のほうを引退された方等に対してですね、終活講座など、そういった講座も設けておりまして、また、今年度から図書館を考える会ということで先日実施をさせていただいたんですけれども、その中でまた意見を出し合っていたきながら図書館の今後の方向性を考えて、また事業のほうを進めていきたいと考えております。以上でございます。

平野委員 中学のプール、どんどん減ってきているということで、この予算的にどっかしかできないのであれば中学のほうを選んだというふうな、そういうことだったんだと思うんですけども。やはり学童が、夏の一日預からなきゃいけないという、そういう状況の中で、やはりプールに行ける・行けないがすごく大きいというふうな、私もその声を聞いていて、園バスを使って中学のほうに行くのはいいんだけど、やっぱりすぐ近くにあると、例えば体調次第でもう上がりたいというお子さんは、じゃあ上がって先に教室に行こうねとか柔軟な対応ができていたと。園バスだと、なかなかそういうこともできなくなるし、やっぱりかなり日数が少なかったというふうなことも聞いているんで、その辺のところを考えると、やっぱり小学校のプール、どうして閉めちゃったのかなというのが本当に惜しいなというふうに思っているんですが、これもともと小学校のプールが使えなくなったというわけではないんですよね。授業では使っていないんですよね。なので、そうするとやはり管理のあれですか、安全を見守る、そういう人件費のことなんですか。監視員とか。

教育課係長 そうですね。中学のほうは、やはり監視員のほう。監視員のほうがやはり数多くいるということで、安全にみられるということは確かにあると思います。そういうところで小学校よりは中学校でというところで実施はしているというのと、やはり小学校につきましても学童さんがいられないときというのは、ほとんどあいているような状態で、利用が全然ない状態だったということもあり

ましたので、学童も町の子供と言われるとそうなんですけれども、基本的には、それ以外の方が利用されているプールということで認識があったものですから、そういうところでは年々、人数のほうが減ってきているというところもありましたので、人件費もそうですし、監視員のところの人数も余り多くはないので、その辺のところ考えると中学のほうに統合して、中学は人数おりますので、安全管理のほうは大分万全を期しておりますので、そちらのほうの対応という形でやらせていただいたということです。

平野委員 それはやっぱりあれですかね、教育課と学童の管轄が違うから、なかなか事情がわからないということなんですか。やっぱり学童の声はかなり切実なものがありまして、お子さんをお持ちの方は想像がつくと思いますが、夏休み、エネルギーを持て余した子供を一日中見るというのは本当に大変で、自分の子供だけでもお母さん方すごい大変なのに、学童の場合はそれがたくさん一部屋に長い時間いなきゃいけないわけで、本当にそのプールがあるなしで子供のほうのストレスも違うし、先生のほうも随分違うと、負担が違うというふうなことを聞いたので、この辺のところは学童がやる日だけでもいいから、逆に園バスとその園バスの運転手の経費を考えたら、学童がやる日だけでもいいから、そのところをうまく日数調整していただいて、この日はオープンにしようよとか何かそういうふうな手だてができないものなんですか。

教育課課長補佐 先ほど、松田中学校、松田小学校は閉場をしまして松田中学校を開場したというのは、松田中学校は小・中・大と3つのプールがあります。そういったことで松田中学校のほうが多いということで、教育委員会としては松田中学校は駐車場もありますし、利用者に対して便利だということもありまして、今年度については松田中学校を開場いたしました。松田小学校を閉めるに当たりまして、福祉のほうとも連携しながら、声を聞きながら決定をしたのですが、特に今年度、夏休みの開放の中で、すごく大変で困っているよというような声は余り聞かなかったんですよ。ですので今後、福祉のほうとも話し合いまして、どっちが望ましいかというのを、もうことは終わってしまいましたので、決めていきたいと思います。先ほど、松田小学校は9月から、夏休みの利用はないのかということで、松田小学校は今年度は1学期のみの利用ということで、

2学期は通常、学校によっては1週間やる授業もありますが、今年度は1学期で授業が終了しております。

あと、バスの乗り心地というのもありましたが、バスの乗り心地についても特に、教育委員会には直接意見を聞いていなかったもので、そういった委員さんから御意見をいただきましたので、また来年に向けて話し合っていきたいと思っております。

平野委員 　ぜひよろしくをお願いします。

それから、先ほどちょっと図書館のほうの答えをスルーしてしまいましたけれども、図書館のほうの、今やられている取り組みとか図書の買い方なんかは私もこれは把握していた範囲なのでわかっているんですが、広域で何かというそういう取り組みに関しては、お考えはどうですか。

教育課係長 　失礼いたしました。図書の貸し借りの件なんですけれども、この辺の市町村で貸し借りはできます。また、もしない場合は県立図書館を通しての貸し借りもできますので、その辺は現在も、その辺の事業を進めているところでございます。以上です。

あと、イベントの件なんですけれども、イベントの件は、他市町と連携をしながら話をしていきまして、今後検討したいと思っております。以上です。

平野委員 　ぜひよろしくをお願いします。

委員長 　ほかに質問ございませんか。（「なし」の声あり）個別質問がないようですので、総括的な質問がある方は挙手をお願いいたします。（「ありません」の声あり）議長のほうはいかがでしょう。

議長 　それではですね、全体的な決算にかかわる質問をさせていただきたいと思っております。2点ございます。

まず1点目といたしましては、決算のほうの説明の中等でありましたけれども、例えば保育のですね、病児・病後児保育等々ですね。これは今現在実施をしていないということです。これにかかわるような、保育だけではなくてですね、足柄上地区とかこの県西地区におきましては、やはり小規模な市町が多いということの中で今後ですね、それぞれの町が単独で一つの事業を起こしていくのではなくて、各市町で連携をしてですね、広域連携としての事業を今後ど

ういうふうに、各それぞれのね、担当課長さんいらっしゃいますので、どうい  
うものがあるかということについての質問をさせていただければと思います。  
今後ですね、可能性のある広域連携でですね、担当課長さんの思いとかですね、  
実現できそうな事業ですね。ここでもう平成29年度の予算編成が始まるという  
ことで、もう予算、29年度からですね、実現をしたいと考えている事業があり  
ましたらね、そういったものについて各それぞれの担当課長から教えていただ  
ければというふうに思います。

2点目といたしましては、今、決算の状況の中でだんだん税収も落ち込んで、  
減少しているという中で、また一方ではですね、かなりさまざまな財政需要が  
ございます。例えば、町民文化センターの改修事業等もですね、ここでの委員  
会での質問事項にもございました。あと、松田小学校の改築もですね、目前に  
見えている事業でございます。そういったですね、多額の投資的な事業が見込  
まれる中で、財政のほうの担当としてですね、松田町の5年先、10年先の財政  
推計というのを示していただけないかと。その可能性について回答をいただ  
ければと思います。かなり、財政のシミュレーションの中で今、さまざまな計画、  
総合計画等もあります。ここで地方創生の事業もですね、突発的に入ってきた  
ものもあります。松田小学校の改築についても、今までのペースよりも、木の  
学校づくりということで、若干そのステップが1年か2年ですか、早くなる  
というふうな、早くならない。そういった部分もありますので、そういったと  
ころに対しての判断というのは、そういうシミュレーションをですね、示して  
いただかないと、なかなか議会としても、単年度で予算がことし余ってるから  
それはいいよというような判断ではなく、5年スパン、10年スパンの中でそう  
いう財政指標を示していただくことが必要かと思われま。それに対しての御意  
見、その以上2点をよろしく願います。

政策推進課長 最初の1点、広域の関係です。所管でいろんな、広域でできるものをもん  
もらって、それを多分、広域を担当している政策推進のほうで今後どうしてい  
こうかということを考えていくようになろうかと思います。私のとこだけで  
すけども、大井がやってる福祉バス。今、大井でやられると思うんですけど  
も、それあたりを来年ちょっと松田のほうでも、松田の人でも乗れるような仕

組みづくりにできないかなというのは政策推進のほうで考えて動いています。先ほどの福祉の話も、それぞれの所管である程度まとめてもらって、それは我々の広域行政のほうで検討していくべき話だと思います。それは幾らでもできると思いますから、各所管でいろんなお話をさせていただくのもいいかと思います。

それと2点目の長期的な財政ということなんで、今、財政のほうで今後5年間とか10年間、大きなもの、例えば学校でありますとか、それから警察官舎でありますとか、それから斎場とか、これから大きな費用がかかるものが多数ございます。今、そういうものを拾い出してございますので、それをある程度まとめて、いつ皆さんにお示しできるかというのはあれですけども、今、そういうのを集めておりますので、今後5年なり10年の財政推計は近々に見ていかなければいけないと思います。そういうものを作成中でございます。

議

長 ありがとうございます。今ですね、一つの事例といたしまして、大井町の福祉バスを平成29年度あたりからというふうな回答をいただきました。それにつきましてですね、ほかの課長さんでも、課長の考え方の中でですね、そういったものがないか。例えば、ちょっと今、ほかのところからも話がありますけれども、子育て関係なんですけども、産後ケアをある程度ね、例えば1市5町とかですね、5町単位でどうなのかというふうな話もあります。例えばそういったことに対して、やはりそれは単独でやらなきゃいけないのかですね、やはりそういうふうに連携してやったほうがいいのかというような可能性をですね、お答え願えたらと思います。また、ほかの課でもこういったものがありますよということであればですね、挙げていただいて、今後の29年度予算とかですね、それ以降の予算編成にですね、参考になればと思いますので、よろしく願いいたします。

2点目の財政推計、近々に示していただけるということで、ありがとうございます。ぜひですね、その近々というのはいつなのかも出していただければ幸いです。よろしく願いします。

定住少子化担当課長

広域連携としまして定住課のほうではですね、27年度から実施しています、縁結びサポート事業というのがございます。本年度、広域という観点の補助金を活用して山北町さんとですね、やるということで、それは今もんでまして、

3月（「今年度」の声あり）今年度、広域としてやる。今、山北町さんの職員の方と連携をして実行委員会を立ち上げて、来年の3月に開催予定でございます。なお、もう一つは町単独の事業も11月の19日ということで、きょうホームページのほうに参加募集の広告をさせていただいたところでございます。それとですね、2市8町でですね、空き家のバンクの関係の連携を27年度からですね、連携でもんでまして、今、協議会をつくって推進していこうということになっております。以上です。

議 長 これは29年度から。

定住少子化担当課長 いや、もう27年度からもんで、28年度にはその協議会という会則を定めて設置をさせていただきます。以上です。

政策推進課課長補佐 財政推計というお話でございます。推計ということですので、いろいろな要因が絡んでくるというところで担当としては今、頭を悩ませているところです。

一例でございますけれども、まず、起債の償還のお話をさせていただきたいと思えます。今現在、決算額のほうで約3億5,000万円ほどの償還を年間してございます。昨年度、旧松田土木の跡地を用地取得特別会計で購入をさせていただきました。こういったものですか、臨財債、国の制度がですね、このまま続くと仮定して、臨財債を約年2億円これからずっと借りていって、投資的事業をですね、最大見積もって約6,000万ほど一般の起債をこれから起こしていくという、そういったシミュレーションを今、一度立てて、私担当のほうで立ててみました。そうしましたらですね、大体、今、金利が0.1%で財政投融资等で借りられますので、大変安うございます。ただ、この低金利もいつまで続くかというのがわからない中で、一応0.5%ぐらいをですね、ちょっと見させていただきながらシミュレーションをしたところ、平成35年ぐらいがマックスで、これは小田原の斎場の金額も入れてございます。そうしますと35年ぐらいがマックスで、今、3億5,000万の償還額が4億2,000万ぐらいになるという結果が出ました。これに不確定要素の多い、不確定要素と言っていいのかどうか、学校の起債ですとか、あと、先ほどお話が出ました文化センターをどうするのかとか、そういったものもですね、含めるとさらに起債が膨らむのかなと。そういった財源調達の方の切り口でですね、いろいろシミュレーション



をしながら、あと担当課の課長のほうも申しあげましたように、担当課のほう  
です、今後こういった財政需要があるのかというのをもう少し具体的に見  
ながらですね、シミュレーションをさせていただきたいと思います。いずれに  
いたしましても、財政を預かる者としては、やはり未来に責任を持たないとい  
けないということは強く感じておりますので、理事者と相談をしながら、また、  
議会にお諮りをしながらですね、決めていきたいと思っております。その推計、  
いつかというのはですね、近いうちにといいお約束しかできないんですけども、  
なるべく次の議会ぐらいにですね、ざっくりとしたものは出せるように努力し  
たいと思います。以上でございます。

福 祉 課 長 広域連携の関係で少しお話しさせていただきたいと思えます。

既に広域連携のほうは介護保険の分野ではもうスタートしておりまして、介  
護認定審査会につきましては5町の共同設置からスタートして、今、上衛生の  
部分のほうに業務は移っております。それ以外に、昨年度からちょっと動いて  
おりますけれども、在宅医療・介護の連携推進事業という部分のところで、既  
にここは広域連携という部分のところがスタートしかけております。医師会の  
ほうに委託する形で今、調整を図っておりますけれど、まだちょっとそのと  
ころ少し時間がかかりそうな形でございます。来年の2月ぐらいには足柄上病  
院のあたりに準備室を立ち上げていく予定で今、動いているところでございま  
す。それ以外にも障害の部分では、足柄上地区地域自立支援協議会というのが  
ございまして、そちらを中心にいろんな部分のところで連携を図っている状態  
でございます。以上でございます。

子育て健康課長 産後ケアにつきましては、産後の訪問や相談等については各市町村独自でと  
いう考えでございますが、例えばですね、上病院で今度始めます産後ケア事業  
につきましては1泊2日で6万円、日帰りで3万円と高額でございますので、  
そのままではですね、利用者がふえないかもしれないので、そういうところの  
利用を促進するためには、例えば5町連携とか、南足柄市入れて1市5町で補  
助をどうするかとかっていう、そういう話し合いはしていきたいと思っております。

議 長 ありがとうございます。広域連携についてはですね、さまざまな事業をですね、

今後も進んでいますし、今後もですね、進めていただけるということで、ぜひ松田町ですね、やはり少しでも財政負担をですね、減らすためということで、住民福祉の向上のためにもですね、広域連携が必要であるというふうに考えておりますので、進めていただければというふうに思います。

財政推計に対しましては、もうある程度ですね、シミュレーションができてるということで、じゃあそれをですね、理事者が示してくれるのか、してくれないのかということが担当課の結論だというふうに思いますので、ぜひですね、示していただいて、やはり議会としてもいろんな判断基準の一つにそのシミュレーションをやって、これだけの、例えば文化センターをね、どんどん改修をして、3,000万、5,000万かけてというところも、やはりこれだけのシミュレーションであれば、もう少しそこは分割をしてとかですね、先延ばししてというふうな結論を出せるかなというふうに思いますので、ぜひよろしく願いいたします。以上で回答は結構です。ありがとうございました。

委員長 それでは、これで総括的質疑を打ち切らせていただいてもよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声多数)

質疑を打ち切ります。職員の方につきましては、長時間にわたりまして質疑に応答していただき、ありがとうございました。これをもちまして質疑を終了としますので、退席してください。大変長時間にわたり、ありがとうございました。

(町側職員 退席)

(「委員長、採決してくださいよ」の声あり) それでは、よろしいですか。審査が終わりましたので、決算の認定について総括的な御意見をお持ちの方、または報告書に特記事項として記載する意見をお持ちの方、お願いします。意見の集約を図りたいと思います。

利根川委員 それは正副委員長にお任せしたいと思います。出された、今まで20件、質疑が交わされました。(「20件」の声あり) 20件です。だから、その1件で2つ出てるのも入れて20件としますので、その正副委員長は記録をとっていると思われますので、それで附帯意見を求めて(「それであなた方の能力を」の声あり) 試される。

委員長 じゃあほかに、総括的な御意見はございませんか。

(「なし」の声あり)

ないようですので、採決に入ります。平成27年度松田町一般会計歳入歳出決算の認定につきまして、賛成の方の挙手を求めます。全員ということでよろしいですかね。それでは全員、平成27年度松田町一般会計歳入歳出決算の認定につきまして、賛成全員で可決されました。

お諮りします。報告書の作成については、どのような形をしたらよいでしょうか。今、利根川委員のほうから、正副委員長に任せるというふうな声が出ましたけど、それでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声多数)

それでは、暫時休憩とさせていただきます。たたき台ができるまでお待ちください。(私語あり) (15時10分)

委員長 休憩を解いて再開いたします。(16時05分)

それでは、お手元にお配りしました報告書を読み上げて御承認をいただくということでよろしいでしょうか。(「はい」の声あり) それでは事務局長、報告書の朗読をお願いします。

事務局長 平成28年9月14日、松田町議会議長 井上栄一殿。決算審査特別委員会委員長 飯田一。

決算審査特別委員会報告書。本委員会は9月14日の午前9時より役場4階大会議室において、委員6名出席のもとに委員会を開催し、平成28年第3回議会定例会において付託された認定第1号「平成27年度松田町一般会計歳入歳出決算の認定」について慎重に審査いたしましたので、次のとおり報告します。

記、1、審査の結果。採決により賛成全員で認定すべきものと決定しました。

2、審査の内容。歳入については一括、歳出については各款を単位として適切な執行がなされたかを中心に審査を行いました。

なお、今後は次のことについて留意し、執行されたい。

(1) 歳入は、財政状況が厳しい中ではあるが、地方創生交付金事業やその他の補助金事業を積極的に取り組み、財源確保に努められたい。

(2) 歳出は、不用額が多く見受けられるが、データを分析して予算計上し、

有効かつ効率よく執行されたい。

(3) 機構改革をして2年が経過したが、その成果を検証し、効率的な事業執行をされたい。裏面でございます。

(4) 施設管理や今後の大型事業の執行に当たり、長期的な財政推計及び計画を作成して、事業を進められたい。

(5) 決算審査特別委員会で指摘された事項について、改善・研究し、今後の事業を実施されたい。

以上です。

委員 長 今、朗読していただきましたけど、報告書の内容を審議したいと思います。報告書の修正箇所につきましては、いかがでしょうか。何かありますでしょうかね。

大 館 委 員 ささいなことだけど、本文の2行目、「委員6名出席のもと」という話ですけども、知らない人は何よ6人きりかよということにもなるので、「全員」という表現のほうがいいのかなと。「委員全員の出席のもと」で。

委 員 長 委員のけつに「全員」を入れるわけね。

大 館 委 員 そうです。「6名」を「全員」にかえてください。ささいなことだけど。

委 員 長 今の、大館議員のほうから、委員の後に「全員」を入れて「委員全員6名」と。

大 館 委 員 「6名」は要らないの。

委 員 長 「6名」を「全員」にしてか。そのかわりに「全員」を入れるということ。

大 館 委 員 そう。そういうことです。

委 員 長 「委員全員出席のもとに委員会を開催し」ということですけど、いかがですか。（「結構です」の声あり）「委員全員」に変更してよろしいですか。

（「はい、お願いします」の声あり）異議なければ、そういうふうに変更させていただきます。

そのほか、いかがでしょうか。（「なし」の声あり）

大 館 委 員 いいんじゃないの。細かく言う必要もないし、この中で酌み取ってもらわなきゃいけないよね。委員会でいろいろやってたことを酌み取ってもらって、実際に行動してもらわなきゃ何の意味もないよという話だから。

委員 長 特に字句の間違いはないですね。（「ないです」「ないようですね」「はい」「御苦労さんでした」の声あり）それでは、どうでしょうか。訂正したものをもう一回、（「いや、いいですよ」の声あり）よろしいですか。（「もったいないよ」の声あり）では、今、修正した事項をもって最終的に提出ということでさせていただきます。

それでは、長時間にわたり、きょう特別委員会、御苦労さまでした。以上で本日解散といたします。（「御苦労さまでした」の声あり）ゆっくりお休みください。 (16時10分)

この議事録は事務局が作成したものであるが、その正確なることを証するために署名いたします。

平成29年 1月11日

一般会計決算審査

特別委員会委員長 飯 田 一